

よぬだ ところどころ



第四十七号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

下米田交流センターに残された

写真から

上写真は、よなだより第八号に掲載された写真である。現在の交流センターにあった支所から写したものである。この写真には日付も題名もなく、詳細を検討してみたい。小さい写真は現在のほぼ同じ地域をみた写真である。

正面の天神社の森が現在は環状道の高架で隠れている。田中浦の水田面と西の水路の間の畦より、小学校東の道路面が高くなっている。水の量が洪水時と同じだとすれば、道路面は通行ができそうである。

問題は、小学校の校庭が低いことである。このような災害に対して、近辺から自動車で避難し、校庭に停めれば水没する危険がある。注 信友のため池付近に数時間(昼間)に突然降ったという 片山氏談

この洪水時の写真は水没していない交流センター付近から撮影されていると思われるので、小学校へ避難する場合は、深渡川左岸の交流センターより高い場所に停めて置くことがよいと思われる。

美濃加茂市のハザードマップ(ため池堰堤崩壊時)からみてみれば、白山西斜面から諏訪の壇に集中的に降水があった場合、ため池も危険であるが、深渡川右岸の田中浦から小学校西のJA(農協)の坪之内、保育園西の竹之腰は危険である。この当時の洪水の記憶がある人によれば、水は農協の前を西に流れ、中屋敷のポストのあるところから南西に流れたという。また、深渡の渡辺さんの記憶では、市道桜の森線の深渡と今の境界にある畑の石組まで水が溢れたということである。

現在の当地に居住する人の心得

膝上まで水がきたら、徒歩での避難は危険である

災害の種類により避難の経路が変わるので、日ごろから十分に注意しておくこと

老人・子どもを連れて歩行での避難は困難であることを考えておくこと

洪水による物損で最も被害額が多いのは自動車であること 9・28被害者の教訓



下米田だより 八号による 正面は天神社 左は小学校
西脇 田中浦の水田をみる